

# トビウオ通信 (H24 第 8 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)

http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/ (TEL 0855-22-1720)

## 《平成 24 年夏の漁況を振り返って》

今号は島根県の夏の漁業として代表されるばいかご漁業、あなごかご漁業、しいら漬け漁業、とびうお漁について、今漁期の漁況を振り返ってみます。なお、平年値は過去 5 年平均を用いています。

### ばいかご漁業 1 隻当たり漁獲量・水揚金額 平年を上回る

石見部及び出雲部のばいかご漁業は、小型底びき網漁業の休漁期にあたる 6 月から 8 月にかけて操業を行います。漁場は日御碕沖から浜田沖の水深 200m 前後の海域で、現在、大田市の漁船が操業を行なっています。

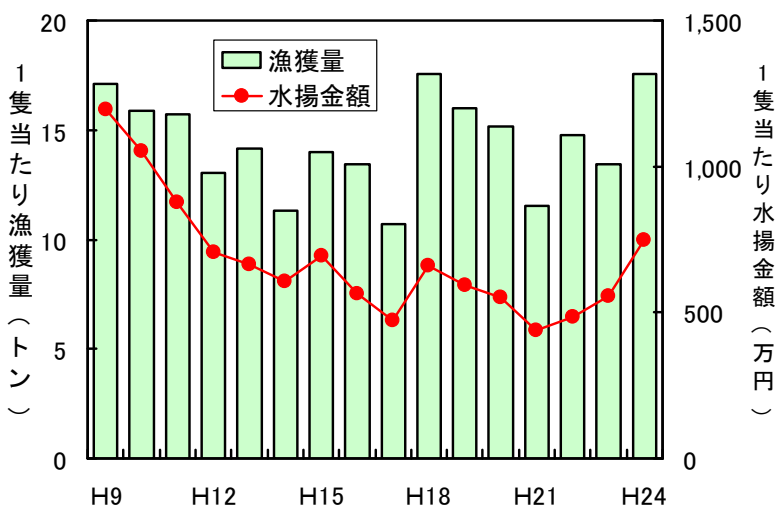


図 1 石見部および出雲部ばいかご漁業におけるエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

今期のばいかご漁業における総漁獲量は 83 トン (前年比 114%)、総水揚金額は 3,609 万円 (前年比 120%) で、漁獲量、水揚金額ともに前年を上回りました。また、漁獲対象であるエッチュウバイ (地方名: 白バイ) の漁獲量は 70 トン、水揚金額は 2,988 万円でした。図 1 にエッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移を示しました。エッチュウバイの 1 隻当たり漁獲量は 17.6 トン (前年比 131%、平年比 124%)、水揚金額は 747 万円 (前年比 131%、平年比 124%) で、前年、平年を 2~4 割上回りました。1 航海当たりの漁獲量 (566kg) も前年、平年を上回っており、近年では好調に推移しました。また、エッチュウバイの kg 単価は近年下落傾向にありましたが、昨年よりやや持ち直し、今期は 426 円/kg まで回復しました。

### あなごかご漁業 1 隻当たり水揚金額 過去最高!

全国有数の産地である島根県のアナゴ類ですが、その多くは底びき網漁業によって漁獲され、次いで夏季に操業を行なうあなごかご漁業で漁獲されます。アナゴ類は夜間に活動が活発となることから、その習性を利用して、夜間に筒を用いて餌かごによりアナゴ類を誘引して漁獲します。本漁業は、主に石見地区で行なわれる

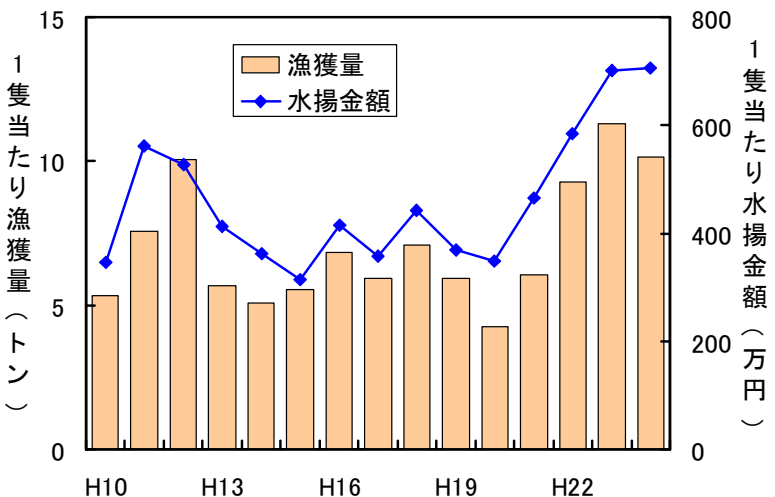


図 2 あなごかご漁業の 1 隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

ことから、ここでは小底休漁期を対象にまとめました。

今期 (6~8 月) の石見地区 (和江、久手) における水揚げ状況は、総漁獲量が 61 トン、水揚金額は 4,231 万円で、漁獲量は前年の 9 割の水揚げに留まったものの、水揚金額は前年並みとなりました。

1 隻当たりの漁獲量は 10.1 トン、水揚金額は 705 万円であり、量・金額とも平年を 4 割上回りました (図 2)。また、漁獲量は平成 23 年に次ぐ値であり、水揚金額は平成 10 年以降、最高の水揚げとなりました。また、1 航海当たりの漁獲量は 360kg で、前年を下回りましたが、平年の 1.5 倍となりました。

## しいら漬け漁業

### 1 隻当たり漁獲量・金額 前年を上回る

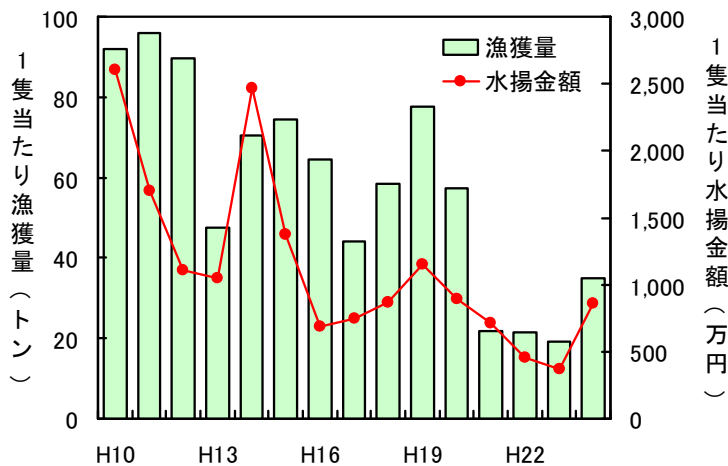


図3 しいら漬け漁業の1隻当たり漁獲量と水揚金額の推移

シイラ等の回遊魚には物陰に寄り添ったり、集まったりする習性があります。この習性を利用した漁法がしいら漬け漁業です。この漁法は、漬木（つけぎ）と呼ぶ竹の筏を海面に浮かべ、そこに集まった魚を網で漁獲するまき網の一種です。現在は、隠岐、石見地区で夏季～秋季にかけて行なわれており、小底休漁期に操業を行なう石見地区がその中心となっています。

今期（6～8月）の石見地区（久手、和江、五十猛、仁摩）における水揚げ状況は、総漁獲量が210トン、水揚金額は5,168万円で、量・金額とも前年を上回りました。

1隻当たりの漁獲量は35.0トン、水揚金額は861万円であり、漁獲量は平年の9割の水揚げに留まりました。しかし、1kg当たり平均価格が平年比の1.2倍と好調であり、水揚金額は平年を2割上回りました（図3）。

図4のシイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移を見ると、シイラは年変動が大きいものの、平成20年までには50トンを超える水揚げが多くありました。しかし、平成21年以降は低調に推移し、最近年は20トン台で低調に推移しています。また、ヒラマサは平成10年以降、二度の豊漁年（平成10年、14年）がありましたが、平成16年以降はまとまった漁獲がなく、低調に推移しています。

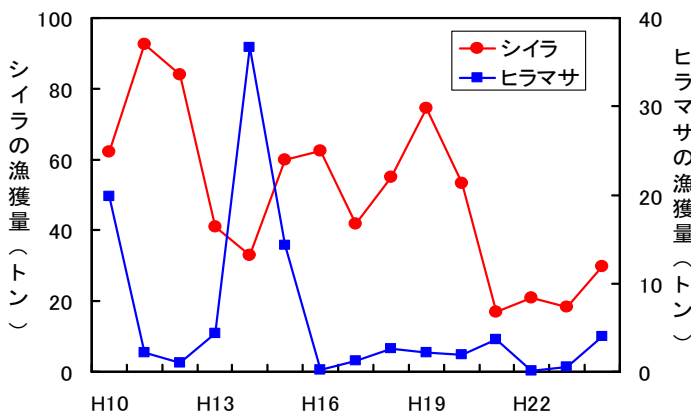


図4 シイラとヒラマサの1隻当たりの漁獲量の推移

## とびうお漁

### 漁獲量は前年を上回るが、水揚金額は減少

トビウオ類は、冬の間は南方で生活し、暖くなる初夏頃から産卵のため山陰沿岸に回遊してきます。島根県には5月から7月頃に来遊し、刺網、定置網、船びき網、まき網などの様々な漁法で漁獲されます。本県で漁獲されるトビウオ類は、主にツクシトビウオ（地方名：角アゴ、角トビ、大目）とホソトビウオ（地方名：丸アゴ、丸トビ、小目）の2種類です。

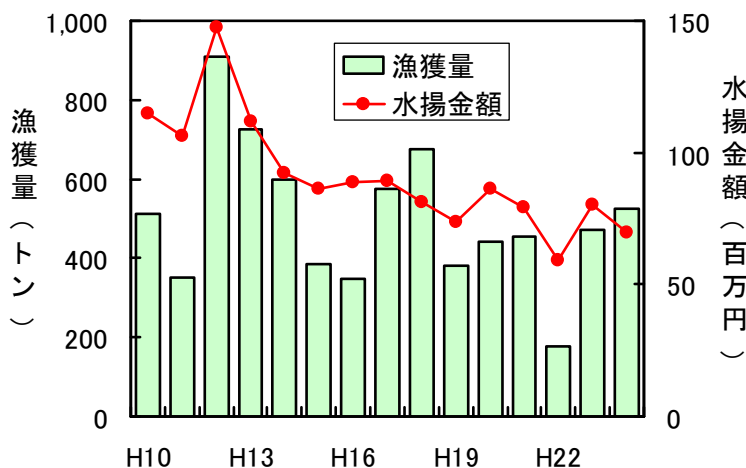


図5 島根県代表港におけるトビウオ類の漁獲量と水揚金額の推移

トビウオ類は県下全域で漁獲されますが、ここでは漁獲統計が長期間にわたって揃っている地区を代表港（出雲部は美保関、島根町、御津、恵曇、大社、石見部は久手、和江、五十猛、仁摩、浜田、益田、隠岐は西郷、浦郷）として取り扱い、それぞれの値を集計しました。

県下代表港におけるトビウオ類の水揚げ状況は、漁獲量が524トン、水揚金額が6,987万円で、漁獲量は前年を上回ったものの、平均価格が前年の8割に留まったため、水揚金額は前年を下回りました。地区別で見ると、出雲部が243トン、石見部が156トン、隠岐が125トンでした。

主な漁業種類別の漁獲量は、定置網が316トン、刺網が103トン、まき網が51トン、船びき網が34トンで、定置網の漁獲が全体の6割を占めていました。また、ツクシトビウオとホソトビウオの漁獲を見ると、ツクシトビウオが109トン、ホソトビウオが415トンで、ホソトビウオが多く漁獲されています。